

Forest 通信

H30



林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.351

巻頭
Photo

高尾山の生きものたち

ウスバシロチョウ (アゲハチョウ科)

シルクのような半透明の翅。滑空するように飛び、空を舞う和紙のようでもある。

ウスバシロチョウは、翅を広げて5~6cmの中型の蝶で、透明がかった翅に黒い筋が目立つ。複眼が大きく、可愛らしく見える。

このチョウに最初に出会ったのは、裏高尾の林道で、ハルジオンの花にとまって蜜を吸っていた。

5月頃のみ成虫が現れ、繁殖活動し卵を産み、卵のまま越冬する。翌春、幼虫になり、ムラサキケマンなどを食べて育ち、繭を作ってその中で蛹となり、成虫となる。

新緑の麗らか青空の下、花咲く野原で、このチョウと花との自然なふれあいを見ていると、のどかな気持ちになる。

(森林インストラクター 藤原 裕二)



富ちゃん 皿ちゃんの



NO.32

サネカズラ (ピナンカズラ) マツブサ科

林道や林の明るい場所でするを伸ばして木に絡みついている。花の時期より実の着いている方がより注目される植物である。和菓子の鹿の子に似た赤い実は緑の葉の中ではよく目立つ。

「茎に粘液があるから、昔はこの枝の皮の粘液を水に浸出して、その液で頭髪を整えたのでピナンカズラ(美男葛)の名がある。」と図鑑に書いてあるので実験してみた。

まず、茎を15cmくらいに切り、茎をたたいてみたが粘液は出てこない。水の中に入れて4日程たつと粘液が出ているのがわかる。実験に使用した枝は少し細かったので、粘液の出は少しであった。昔、使用した枝は径1cmほどの太さのものではなかったのか。このくらいの太さだと、粘液も大量に採取できる。髪を整えるのに使用したのは男性だけでなく女性も使用していたようだ。

百人一首に「名にしおはば逢坂山のさねかずら人に知られて来るよしもがな」(三条右大臣)

漢名は南五味子(ナンゴミシ)、漢方ではこの成熟した果実を採取し乾燥したものを「南五味子」といって滋養強壮および鎮咳薬に供する。(富)

サネカズラの
茎を
水につける



サネカズラの
粘液



フォレストサポート スタッフ委嘱式

平成30年度に高尾森林ふれあい推進センターが実施する森林教室や体験林業等のイベントをサポートしていただく森林ボランティア「フォレストサポートスタッフ（FSS）」の委嘱証明書交付式を4月14日に実施しました。今年度は、再委嘱者34名、新規委嘱者3名を委嘱者に決定し、出席いただいた29名に当センター所長から委嘱証明書を交付しました。



委嘱証明書授与の様子

当日は、委嘱証明書の交付に続いて、当センター職員が、今年2月の関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会で発表した「充実した森林環境教育の実施に向けて」を紹介し、当センターの業務、取り組み等について理解を深めていただきました。また、フォレストサポートスタッフ制度についての説明や林業労働災害の事例等を取り上げながら安全指導を実施し、災害の未然防止・安全確保の重要性を認識していただきました。



安全指導研修

当制度は、平成26年3月に制定され、森林管理署等において森林教室や体験林業等の実施に当たり、森林・林業や森林環境教育に造詣の深い方や、イベント等の実践を通して森林・林業や森林環境教育の研鑽にいそしんでいる方にイベントスタッフとして関東森林管理局長が委嘱する制度で、当センターでの委嘱証交付式は今回が5回目となりました。今回の委嘱者はそれぞれが、森林・林業や森林環境教育に興味を持たれた方ばかりで、当センターのイベント等を実行するために欠くことのできない存在となっております。今年度もフォレストサポートスタッフのご協力をいただきながら、より良い森林環境教育の実施に努めて参りたいと考えています。(谷)



センターの業務説明



熱心に講義を受けるFSSの皆さん





中央区立 佃島小学校

初夏を思わせるような好天に恵まれた4月26日、中央区立佃島小学校5年生115名が森林教室にやってきました。今年度初の森林教室ということもあり、私たちも少し緊張気味での出迎えとなりました。

大型観光バス3台、115名という大所帯のため、大きく二つのグループに分かれて、午前と午後でプログラムをそれぞれ入れ替える方式での実施となりました。今回のプログラムは①パワーポイントによる森林学習および丸太切り、②森林散策の2つです。

パワーポイントを使っての森林学習では高尾山の動物たちの話、間伐のやり方、森の持っている沢山の機能など多方面にわたる講義に子供たちは興味津々の様子でした。

座学が終わると屋外での丸太切り体験です。上手に切っていく子もいればノコギリを初めて使う子もいます。しかし、それぞれ一生懸命に取り組んでいる様子はいつもながら感動的です。

森林散策ではスギやヒノキはもちろん、モミ、カツラなどの巨木の森を約1時間30分かけて歩きます。最初は大人しかった子供たちですが、「緑がすごくキレイ!」「カエルの卵とオタマジャクシ!」「キレイで冷たい水!」と喚声を上げて喜んでいました。

閉校式では大きな声で「センターのみなさん、ありがとうございました!」と感謝の言葉を残して無事に帰路につきました。(磯)



空気が美味しい!

新人紹介



4月に高尾森林ふれあい推進センターに来た 2名の新職員を紹介します。



所長 田口 忠久

4月1日付けで高尾森林ふれあい推進センターに勤務することになりました田口です。

高尾山周辺の国有林をフィールドに多くの皆様に森林や林業の役割、木材利用の意義を理解していただくとともに、森林・林業に親しんでいただくために各種団体の方々と協働で様々なイベントを行っています。そのイベントを通じて、森林とふれあい、森林を学び、林業を体験し、地球温暖化を考える。そのような森林環境教育を含めて、自然再生活動や生物多様性の保全にも取り組んでいます。これからもより一層、自然のすばらしさを伝えていきたいと思えます。



自然再生指導官 高氏 均

四月一日付の異動で高尾森林ふれあい推進センターで勤務することとなりました高氏です。

十数年前、関東森林管理局東京分局時代に森林ふれあい業務に従事したことがありますが、当センターでは民と官の協働による森林環境教育が進められているとのことで、隔世の感があります。

この自然あふれる高尾の地で、協働いただいている皆様と共に森林環境教育に取り組んで参りたいと思えますのでよろしくお願いいたします。



クラフト体験・団体予約申込みについて

団体予約は、教育機関等のみ受け付けます



受付業務・下見・実施は平日のみ対応できます



1

まずはお電話ください。

- 体験希望日の予約状況等お調べします。対応可能なら、体験内容の打合せに入ります。この時に下見の予約ができます。

2

下見もできます（予約制）

- クラフト体験室の雰囲気を実際に見ただけです。作成できるクラフト作品を、実物を見て検討できます。

3

「クラフト体験依頼申請書」を、先にFAXでお送りください。

- センター担当者が依頼内容を確認するため、まずは申請書をFAXでお送りください。

4

「クラフト体験のご案内」をお送りします。

- センター担当者から、「クラフト体験のご案内」をお送りした段階で、予約が完了します。内容をご確認ください。

5

「クラフト体験依頼申請書」の原本を郵送してください。（キャンセルした場合も）

- 申請書は、体験日までに**学校印等公印を押印した原本**を郵送してください。（キャンセルしても）申請書の提出がない場合次回のご利用をお断りすることがあります。



編集後記



私の家の近くには地元で有名な桜並木があるのですが、4月中旬にふと思立ち見に行ったら、すでに葉っぱだけになっていました。休日は終日布団をかぶって引きこもるので、毎年見逃します。

高尾は一気に気温が上がり、春の陽気の日が多くなってきました。それにあわせて虫たちも活発に動いています。高尾センター周辺ではスズメバチの姿を目撃しました。登山の際には注意しつつ春の高尾山を楽しんでください。（松）

ご不明な点等ありましたら
お気軽にお問い合わせください



（担当）

Forest 通信 NO.351

発行:林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>



国民の森林・国営林